

scene 01

# 前橋赤十字病院 高度救命救急センター



「もしも交通事故に遭ってしまったら…」  
「もしも突然苦しくなってしまったら…」  
前橋赤十字病院の高度救命救急センターは、救急外来（ER）、集中治療室（ICU）、救急病棟、ドクターヘリが常に連携を取りながら、いつでも「もしも」に対応できる救急医療体制を整えています。



## 救命救急の現場から

実録  
ルポ

24時間、休むことなく診療を行っている高度救命救急センター。ここでは、そこで働く医師と救命救急の現状に迫ります。

「10分後に患者さんが来ます。点滴用意して！」

午前9時5分、救急隊からの電話とともに診療室へ向かう町田医師。看護師らと処置の方法を確認しながら指示を出す。

運び込まれたのは建設現場で3才の高さから落下した男性。意識はあるが落下した時の記憶はないらしい。応急処置をした後、CTなどの検査を行った。結果は、大腿骨や骨盤、手首を骨折する大怪我。しかし幸いなことに命に別状はなく、患者の家族も安堵の表情を見せる。

「大丈夫？もう1回だけ痛いかもしれないけど、ちょっと我慢してね」

午前10時30分、そう言っていた裂傷していた頭部を縫合する

前橋赤十字病院  
高度救命救急センター  
医師  
町田 浩志さん



## 最良の救急医療を提供しています

全ての救急患者を診療

救急医療には、緊急性が低く入院の必要がないと思われる1次救急、入院が必要だと思われる2次救急、2次救急で対応できない高度な診療が必要な3次救急の3種類があります。当センターは全次型ERと呼ばれ、これら全ての

救急患者の診療を行っています。来院する救急患者は年間約2万人。その症状を見極めながら優先順位を考え、検査・治療を行っています。

### 高度な救急医療体制

当センターの特徴は、高度な救急医療を行う医師と設備を整えているということです。県内で唯一の高度救命救急センターとして認可され、全身大やけど、薬の大量摂取や農薬の誤飲などによる中毒症、手足などの切断などの患者の治療を行うことができる体制を24時間整えています。

また、県内で災害が起きた場合に、その救護活動の中心的役割を担う基幹災害医療センターにも指定され、消防機関や災害拠点病院と連携して救護活動に取り組みます。

これからも、先進的で高度な救急医療を行いながら、地域医療の中心となって積極的に取り組んでいきます。

前橋赤十字病院  
高度救命救急センター  
センター長  
中野 実さん



と、担当となる整形外科医に引き継いだ。

### 待つことのしんどさ

「今のケースはドクターヘリが現場に行った方が良かったと思います。もしも内臓に損傷があったら、命を落としかねないケースでした」

救命救急の現場においては、1分、1秒の違いが生死を分けることが少なくない。過去には、搬送されてくる間に状態が急激に悪化し、病院に着いたときにはすでに心肺が停止していたため、救急車に飛び乗って治療したということもあった。

「あの時ほど待つことがつらいと思っただけはなかったです。夜間のためドクターヘリが飛ばず、診てあげられないことのもどかしさだけが募りました。つらくて悔しくて仕方なかったです」

医師の道を歩み始めたのは11年前。当時は心臓血管外科の専門医だった。多くの患者を診察し、救命救急とやりとりを行う中で、「医師の数が少

意識がない患者さんにも、必ず声を掛けながら処置をしています。ICUを出る際はほとんどの人がベッドに寝たままなのですが、退院時に、歩いてあいさつに来てくれる患者さんの元気な姿を見ると本当にうれしくなります。

まだまだ勉強しなくてはならないことばかりですが、これからも常に冷静な対応を心掛け、正確な処置を行ってまいります。

## Interview

高度救命救急センター  
ICU看護師  
生方 佑美子さん

